

子牛育成飼料給与マニュアル(R7.11月改訂)

今回、生時体重の増加に伴いマニュアルの一部改訂を行いました。

～「フレームサイズ」がある、「腹づくり」のできた、「過肥でない」子牛づくりに努めましょう！～

生後3カ月間が重要、「人工哺乳」や「制限哺乳」に取り組み、えづけ飼料摂取量を高めよう！

子牛育成飼料給与マニュアル

【設計値】えづけ飼料:CP18% TDN75% 育成飼料:CP16% TDN70%
(~5カ月)ハミューダ乾草:CP8.1% TDN49.1% (6カ月~)イタリアン乾草(自給飼料):CP9.7% TDN53.4%

★給与量は目安です。目安体重以上の牛には、濃厚飼料と粗飼料の割合を守り、飽食給与を行い、採食量が不足しないようにしてください。

★CP含量が低い粗飼料を給与すると飼料摂取量が低下するので、粗飼料多給となる6カ月齢以降は給与飼料全体のCP含量を乾物中12%以上にしてください。

生時体重40kg以上		生時(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	出荷目標	☆生時体重が大きい子牛は、増体に優れるため早く出荷できます
1日当たり飼料給与量 (原物重、kg)	えづけ飼料	(日齢)	30	60	90	120	150	180	210	240		
	育成飼料					4.0	4.5	4.5	4.0	3.5		
	良質粗飼料(乾草)	0.015	0.2	0.4	1.6	2.0	3.0	4.0	5.0			
体高の目安(cm)		77	83	89	95	100	105	110	115	118		
体重の目安(kg)		40	66	84	120	156	192	231	264	300		
生時体重40kg未満		生時(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	出荷目標	◎生時体重を推定しましょう →胸囲の測定
1日当たり飼料給与量 (原物重、kg)	えづけ飼料	(日齢)	30	60	90	120	150	180	210	240	260	
	育成飼料					3.5	4.5	4.5	3.5	3.5	3.5	
	良質粗飼料(乾草)	0.015	0.2	0.3	1.3	1.7	2.5	4.0	4.5	5.0		
体高の目安(cm)		72	80	85	91	97	102	107	110	114	116	
体重の目安(kg)		35	61	76	106	136	172	211	244	277	300	

生時体重35kg		生時(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	出荷目標	胸囲 (cm)	推定 体重(kg)
1日当たり飼料給与量 (原物重、kg)	えづけ飼料	(日齢)	30	60	90	120	150	180	210	240	265	77	40
	育成飼料					3.0	4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	76	39
	良質粗飼料(乾草)	0.015	0.2	0.3	1.3	1.6	2.0	3.5	3.5	4.0	4.5	75	38
体高の目安(cm)		69	77	84	90	95	100	104	108	111	113	74	36
体重の目安(kg)		35	59	74	101	130	161	193	221	250	270	73	35

濃厚飼料と粗飼料の給与割合 (去勢、生時体重40kg以上の場合)



生後3カ月齢までの管理ポイント

- ①3日齢から飲水給与
- ②人工哺乳や制限哺乳の実施
- ③7日齢からえづけ飼料給与(固形飼料に慣れさせる)
- ④2カ月齢離乳の実施

出荷までは粗飼料多給
濃厚飼料多給は6カ月齢まで

重要

生後～3カ月

えづけ飼料:乾草
9 : 1

<えづけ飼料で子牛の体と第1胃の絨毛の発達>

- ▷ 人工哺乳や制限哺乳でえづけ飼料摂取量の増加
制限哺乳: 哺乳回数を1日朝夕2回に制限
スムーズな離乳と母牛の発情回帰にも効果
朝(15分程) 夕(15分程)

隔離 哺乳 隔離 哺乳 隔離

- ▷ 離乳時、えづけ飼料1日あたり1kg以上摂取でスムーズな離乳

ミルク+
えづけ飼料
↓
絨毛の
発達良好



4～5カ月

育成飼料:乾草
7 : 3

<育成飼料多給で骨格の発達>

- ▷ えづけ飼料から育成飼料へ切替は3週間かけてゆっくりと
- ▷ 骨格が最も発達する5～6カ月齢に育成飼料給与最大

えづけ用「混合飼料」の作成方法
①乾草を1～3cmにカット
②乾草2.2kgを計量
③えづけ飼料20kgを投入
④えづけ飼料と乾草を混合
密閉容器保管



6カ月～出荷

育成飼料:乾草
4 : 6

<粗飼料多給で胃袋の発達>

- ▷ 濃厚飼料多給から粗飼料多給へ切替はゆっくりと
- ▷ 濃厚飼料を制限し余分な脂肪は付けない ⇒ 増体に優れる牛は早期出荷

頭数に合った
飼槽幅と食べやすい高さに調整



